

東北地方太平洋沖地震にかかる本学の対応について

①緊急

東北地方太平洋沖地震連絡会議の設置

(平成23年3月12日～22日)

②支援

災害支援対策会議の設置

(平成23年3月22日～現在)

学生、教職員等の安否確認 → (対象者全員に被災のない旨、即時確認)・・・3月23日付け、確認完了

入試に関する取扱い → (入学手続きの延長、試験実施期間への配慮)・・・3月12日実施の個別学力試験終了後も個別に対応

DMA T等の派遣について → (随時、医療班等を被災地へ派遣)・・・3月12・15・21・24・27日 その他 随時協力

義援金の募集 → (学内4カ所で、義援金を募集)・・・3月18日付け、募集開始

学生への経済的支援事業 → (入学料・授業料の震災減免の実施)・・・3月17日付け、決定

学生のボランティア活動 → (義援金の募集、献血活動への検討など)・・・3月16日付け、確認

柔軟な学生・研究者の受入れ

→ (科目等履修生や入学学生、その他研究者などを、学内において柔軟に受入れ)・・・4月8日より適宜実施

第1回「震災を考える日」の取組みについて

1. 防火・防災総合訓練の実施

開催時間: 午後4時～6時

開催場所: 大阪市立大学杉本キャンパス内

参加人数: 約4,000名(全教職員・学生・市民の方 等)

開催概要:

杉本キャンパスにおいて、午後4時10分に震度6強の直下型地震が発生、それに伴い火災が発生したと想定し、避難誘導、安否確認、消火、救出救護、通報・連絡、施設点検の訓練を実施。

2. 地域防災フォーラムの開催

開催時間: 午後6時30分～8時30分

開催場所: 大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター

参加人数: 約250名(教職員・学生・市民の方 等)

開催概要:

東北地方太平洋沖地震を契機に、今後、防災に関し地域との連携を検討していくため、住吉区役所や町会、中学校など地域の方々と共に「地域防災フォーラム」を実施。

フォーラムには、市民の方や本学教職員・学生を含め約250人の参加があり、本学からは、被災地に派遣した職員の報告や生活科学研究科教員による地域防災に関する基調講演のほか、副学長とボランティアセンターの学生が代表として参加し、地域の方々との防災に関する意見交換を実施。

3. 市大病院における被災地での取組みについての活動報告会の開催

開催時間: 午後5時～6時40分

開催場所: 医学部附属病院5階 講堂

参加人数: 144名

開催概要:

被災地における医療支援活動の内容について、教職員を対象に報告会を実施。

- ・ DMAT派遣 (茨城県・岩手県)
- ・ 救護所派遣 (岩手県釜石市・大槌町)
- ・ 心のケアチーム派遣 (岩手県釜石保健所) 等



都市大阪にある大阪市立大学が総合性を活かした都市防災研究に取り組み、成果を地域・被災地に還元する

基本的考え方

- 東日本大震災の調査研究を通して、都市防災研究を分野横断的に実施し、「都市科学」研究の進展を図る
- 最中・直後(短期)、事後(中期)、事前(長期)の時間軸と大阪・被災地を対象とする空間軸の視点をもつ
- 大阪市をはじめ国内外の地震防災・減災と東日本大震災被災地の復旧・復興に向けた提言を行う
- 重点研究として開始し、3年程度の継続研究を目指す

具体的な研究テーマ例

- いのちを守る対応行動
 - ・津波からの避難行動、避難所・応急仮設住宅・災害復興住宅における支援策(医・生・看・健スポ)
 - ・情報伝達・手段とコミュニティ(工・文)
- 復旧・復興過程での問題解決とビジョン
 - ・経済復興と文化復興(創都・文)
 - ・「社会的不利地区」における災害への脆弱性(経)
 - ・被災時の日用品物流網の再構築(経営)
 - ・「安全社会」の新しいデザイン(法)
- 大阪市及び地域に特化した問題の抽出＝上町断層系地震、南海・東南海地震に備える
 - ・想定すべき地震と被害(液状化、地下空間の安全性、津波)(工・理)
 - ・高層・超高層建物の対策、帰宅困難者対策(工・生)